

研究機関名：旭川医科大学

作成年月日：2025年7月2日（第1版）

|                     |  |
|---------------------|--|
| 承認番号                | 25068  |
| 課題名                 | 分娩期の看護に関するシミュレーション学習の効果と課題の検討-アンケート結果から-   |
| 研究期間                | 西暦 2025 年 8 月 25 日（実施許可日） ～ 2026 年 3 月 31 日  |
| 研究の対象               | 2024 年 11 月～2025 年 2 月に旭川医科大学看護学科で母性看護学実習を履修した 2024 年度に第 3 学年であった看護学生  |
| 利用する試料・情報の種類        | <input type="checkbox"/> 診療情報（詳細： ）<br><input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ）<br><input type="checkbox"/> 血液<br><input checked="" type="checkbox"/> その他（2024 年度に実施した母性看護学実習で、終了日にご回答いただいた無記名自記式質問紙のデータ「母性看護学演習が臨地看護学実習に及ぼす効果を伺った調査」） |
| 利用予定日               | 開始日：実施許可日から 1 ヶ月後  |
| 試料・情報の管理について責任を有する者 | 旭川医科大学 学長 西川 祐司  |
| 研究の意義、目的            | 出生数の減少が加速する中、出産場面に遭遇できる臨地看護学実習の機会も減少しています。そこで、出産シミュレーションを取り入れた母性看護学演習体験が、臨地母性看護学実習の学びにどう影響したのかについて調査し、演習による実習への効果について検討する必要があります。  |
| 研究の方法               | 2024 年度に母性看護学実習を履修した看護学生の皆様に「第 3 学年の母性看護学演習が臨地看護学実習に及ぼす影響」について無記名自記式質問紙にすでにご回答いただきました。調査で得られた結果を、このたび学会へ報告することで、少子化に対応した母性看護学演習と母性看護学実習の効果的な連動に関する教育的示唆を他の研究者から得たいと考えました。そこで、2024 年度に得た調査結果を学会等へ公表させていただきます。                                   |
| その他                 | 本研究による利益相反に関する事象はありません。  |
| お問い合わせ先             | 本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。<br>連絡先：<br>「所在地」<br>〒078-8510 旭川市緑が丘東 2 条 1 丁目 1 番 1 号<br>「研究責任者の所属・氏名」<br>旭川医科大学医学部看護学講座母性看護学・助産学分野・山内まゆみ<br>「連絡先：電話番号（直通）」<br><u>TEL:0166-65-2910</u> （研究責任者研究室）  |